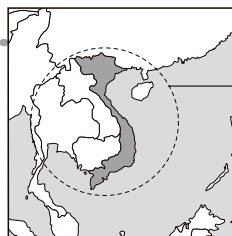


ユニセフ 子ども物語

地球に生きる子どものくらし

Viet Nam

ベトナム社会主義共和国



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。



いっぱい学びたい！ ～ガイちゃんの物語～

ガイちゃんは、中国との国境の近くの村に住む女の子です。ガイちゃんの家族は、ベトナムの多くの人とは異なる文化や言葉を使う少数民族のモン族です。ガイちゃんもベトナム語ではなく、モン語を話して育ちました。



ガイちゃんが5歳のとき、小学校に通うためのお知らせが届きました。ガイちゃんは、小学校で勉強するのを、とても楽しみにしていました。

小学校に入学すると、ガイちゃんはびっくりしました。教科書も読めないし、先生が何を言っているのか全く分からなかつたからです。

学校は、授業も、教科書もすべてベトナム語だったのです。ガイちゃんは、だんだん学校がつまらなくなって、行くのをやめてしまいました。



ある日、ガイちゃんのお母さんは、近所の人から、新しくできる学校のことを聞きました。ユニセフが、少数民族のための学校を建てるということです。お母さんは、ガイちゃんをその学校に通わせることにしました。

新しい学校では、先生はモン語もベトナム語も両方話せて、教科書も2つの言葉で書かれています。ガイちゃんは授業が分かるのが楽しくて仕方ありません。学校の図書館でたくさん本を読んだおかげで、最近では英語も少し分かるようになりました。



そして、勉強だけではありません。モン族の伝統文化だって、しっかり身につけています。学校では、モン族の踊りを踊ったり、歌を歌ったりもします。ガイちゃんは、モン族の踊りが大好きです。元気いっぱい踊りを見せるガイちゃんを見て、お母さんもとても嬉しそうです。

今年、小学校を卒業するガイちゃん。成績も優秀で、地域でいちばん有名な中学校に進学する予定です。



少数民族の子どもたちにも公平な“機会”を…

ベトナムの子どもの状況

（より詳しい統計は『世界子供白書2015<要約版>』をご覧ください）

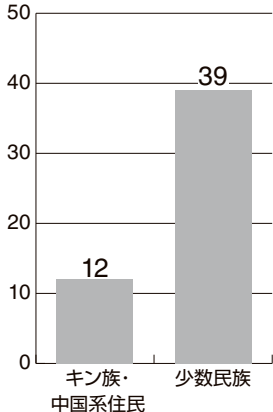
項目	統計	
	ベトナム	日本
5歳未満児死亡率(2013年) ※1000人当たりの人数	24	3
乳児(1歳未満)死亡率(2013年) ※1000人当たりの人数	19	2
初等教育 純出席率(男)(2008-2013年)	98	-
初等教育 純出席率(女)(2008-2013年)	98	-
中等教育 純出席率(男)(2008-2013年)	78	-
中等教育 純出席率(女)(2008-2013年)	84	-

出典：『世界子供白書2015（要約版）』

ベトナムの課題

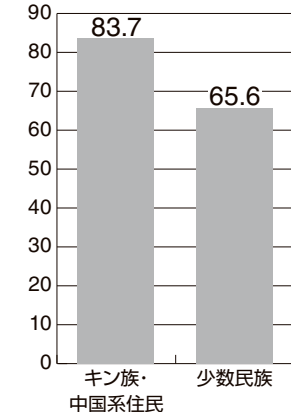
ドイモイ政策が実施されたベトナムは、都市部が急速に発展する一方で、少数民族が多く暮らす山間部では未だに厳しい暮らしをする人が多くいるなど、格差の広がり大きな課題となっています。上段のグラフ「ベトナムの子どもの状況」の数値は全国平均値ですが、現状はとても深刻です。例えば、5歳未満児死亡率をみると、人口の大半を占めるキン族と中国系の住民では1,000人中12人ですが、少数民族では1,000人中39人と大きな差があります。また、中学校の出席率も、キン族・中国系住民は83.7%であるのに対し、少数民族は65.6%です。

●5歳未満児死亡率(1000人中)
(人)



出典：ベトナム統計総局「MICS 2011」

●中学校出席率(%)



出典：世界銀行
[Vietnam High Quality Education for All by 2020]

ベトナムの教育制度

ベトナムでは、6歳から小学校が始まり、小学校5年間、中学校4年間、高等学校3年間の12年制です。義務教育は小・中学校の9年間です。

バイリンガル教育事業

ベトナムでは、公立の学校はあるものの、多くの先生は公用語のベトナム語しか話せず、また教科書もベトナム語のため、少数民族の子どもたちが学校に通っても勉強についていけないケースや退学してしまうケースが多く見られました。そこでユニセフは、現地政府や自治体と連携し、少数民族の言葉とベトナム語の両方で書かれた教科書を制作したり、二言語で教えられる先生を育成する事業を行っています。また、山間部では、家から学校までが遠く、通学ができない子どもたちも多いので、平日のみ学校に泊まることのできる半寄宿舎制の学校の設置も行っています。



© 日本ユニセフ協会
「ベトナム語」と「モン語」の2言語で書かれた教科書

栄養不良の子どもたちへの支援

少数民族が多く暮らす山間部は、栄養不良の子どもたちが多くいます。ユニセフでは、母親たちに、健診の大切さを広め、子どもが5歳になるまでは定期的に健診を受けに来てもらっています。栄養不良の子どもには、HEBIと呼ばれる簡易栄養食品を与えます。母親たちがきちんとHEBIを栄養不良の子どもに与えるよう、また通院してもらえよう、決まった日数分のHEBIを渡し、次のHEBIは空の袋と交換する、というシステムを取っています。



© 日本ユニセフ協会
HEBIを食べて、元気になった男の子を抱っこするお母ちゃん。床にあるのはとうもろこし。

人身売買の被害にあった子どもたちへの支援

複数の国と国境を接するベトナムでは、国を越えて誘拐結婚や人身売買の被害に遭う子ども（多くは女の子）も少なくありません。よくある手口は、ブローカーが良い働き口がある、と言って近寄ってくるものですが、中には親戚に騙されたり、人身売買の被害を受けて保護された人が、地元に戻ってブローカーになる等の事例もあります。ユニセフは、政府や国境警察と連携し、保護した子どもたちの支援に当たっています。

指定募金のご案内

学校事業部では、ベトナム・モンゴル・カンボジアの3か国を対象に、国を指定して支援できる“指定募金事業”を行っています。詳しい支援内容は、下記ホームページから見る您可以通过。

子どもと先生の広場トップページ

<http://www.unicef.or.jp/kodomo/>
『ユニセフ募金に協力する』をご覧ください。